

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	A-169	23-063 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Associations between physical activity, sedentary behaviour, and alcohol consumption among UK adults: Findings from the Health Behaviours during the COVID-19 pandemic (HEBECO) study</p> <p>英国成人における身体活動、座業行動とアルコール消費との関連： COVID-19 パンデミック時の健康行動に関する研究 (HEBECO 研究)</p>		
執筆者		
Akwa LG, Smith L, Twiddy M, Abt G, Garnett C, Oldham M, Shahab L, Herbec A.		
掲載誌		
PLoS One. 2023 Oct 10;18(10):e0287199. doi: 10.1371/journal.pone.0287199.		
キーワード		PMID
COVID-19、身体活動、筋力トレーニング、アルコール飲酒		37815979
要 旨		
<p>背景： COVID-19 の大流行とそれに伴うロックダウンは、アルコール消費と身体活動に大きな悪影響を及ぼした。パンデミック以前の成人集団では、身体活動レベルが高いほど飲酒レベルも高いことが示されているが、これらへのパンデミックの影響については明らかでない。そこで本研究は、COVID-19 パンデミック時に構築された英国コホートで、アルコール消費と身体活動の関連を評価した。</p> <p>方法： 英国成人 2,057 名 (18 歳以上) を対象とした Health Behaviours during the COVID-19 pandemic (HEBECO) 研究のデータを用いた。参加者は、2020 年 11 月から 2021 年 1 月の間に、自記式調査により、アルコール摂取 (頻度、量、大量エピソード飲酒 (HED) の頻度、AUDIT-C スコア) と身体活動 (中等度-高強度身体活動 (MVPA)、筋力トレーニング (MSA) の頻度、座位行動) 回答を得た。統計解析は、社会人口統計学的因子を調整した順序ロジスティック回帰モデルを用いた。</p> <p>結果： 対象者の 15% が禁酒、23.4% が 4 回/週以上飲酒していた。1 回の飲酒機会あたり 6 単位以上である HED については、13.9% が報告し、7.5% においてほぼ毎日との報告であった。AUDIT-C で 11 点以上は 4.2% がであった。MSA なしと比較して、MSA を 3 日/週実施のものでは、アルコール頻度 [OR (95CI%) = 1.41 (1.04-1.91)]、量 [OR (95CI%) = 1.38 (1.02-1.87)]、HED [OR (95CI%) = 1.42 (1.05-1.94)]、依存の可能性 [OR (95CI%) = 1.47 (1.05-2.06)] のオッズ比が有意に高かった。MVPA および座位行動と飲酒指標との関連は有意ではなかった (p>0.05)。</p> <p>結論： 先行研究とは対照的に、有酸素性身体活動ではなく MSA が、COVID-19 流行時のアルコール消費量増加と関連していた。ロックダウン中は、その対処行動の一つに飲酒があり、有酸素運動の機会も限られていたため、MSA がより実施可能な身体活動とであったことが考えられる。公衆衛生への介入を導くためには、さまざまな形態の身体活動とアルコール消費との時間的關係を調べる、より多くの研究が必要である。</p>		